

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	看護ケアにおける看護師の前腕の汚染に関する実験的検証				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	加藤 京里
	研究分担者	所属・職名	看護学部・准教授	氏名	永谷 幸子
		所属・職名	看護学部・准教授	氏名	山口 みのり
		所属・職名	看護学部・講師	氏名	管原 清子
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	倉本 直樹
	発表者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	加藤 京里

講演題目	バイタルサイン測定における看護師の前腕汚染に関する実験的検証
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【研究の目的と概要】</p> <p>日本国内の多くの病院では、看護師はケア場面において半袖の白衣にプラスチックエプロンを着用し、前腕部位は露出されている。衛生的な手洗いは、一番汚染しやすく感染の伝播経路となりやすい手指から手首の洗浄、消毒を行う方法が看護学のテキストに掲載されており、またこの方法はCOVID-19パンデミック下で一般市民にも普及した。現行の衛生的な手洗い方法では、手首よりも中枢側の前腕は洗浄・消毒しない。しかし医師やその他医療従事者と比較して看護師は、患者に密着してケアを行う。手首よりも中枢側の前腕が、患者や療養環境に触れることが予測されるため、前腕も洗浄、消毒が必要ではないかと考えられる。</p> <p>本研究では、実験的に看護ケア場面（バイタルサイン測定）をシミュレーションし、看護師の前腕における汚染部位を解明する。実験上の看護師役は、看護実践の実際を反映させるために、看護師として臨床経験のある者とする。感染予防上、また蛍光剤を塗布することから、安全面を考慮して看護ケアを受ける患者役はモデル人形を使用する。看護ケアのシミュレーション場面は、「バイタルサイン測定（体温、脈拍、血圧の測定）」を設定する。モデル人形に蛍光剤を塗布し、ケア実施後、ブラックライトで看護師役の前腕部位の蛍光剤付着部位の面積を計測する。</p> <p>【プレテスト結果】</p> <p>前腕の汚染部位とみなされる蛍光剤の付着部位とその面積を画像処理ソフトで計測するために、看護ケア場面の実施後にブラックライト下においてカメラ（静止画）で前腕を撮影した。カメラの位置は、前腕の測定範囲の中央から500mmの高さに固定した。ブラックライトを2個使用し、前腕を挟むようにして配置した。蛍光剤が付着した前腕の画像から、以下の手順で付着面積を抽出し、計測した。 ①チェッカーボードを端に貼り付けた黒い紙を撮影②ブラックライトで照射した手と前腕の画像をカメラ（静止画）で撮影③画像処理ソフトを使用し、画像をモノクロ化④コントラストの調整⑤輪郭（＝蛍光剤付着部位）を抽出⑥面積を計測</p> <p>以上の手順で実施可能であることを確認した。</p> <p>【今後の展望】</p> <p>次年度は、研究協力者を募集し本研究に着手する。</p>